様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６２９
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2012～2013
課題番号：２４８３００７８

研究課題名（和文）家族ケアを行なう子ども（ヤングケアラー）の社会学的研究

研究課題名（英文）Sociological Study of Young Carers

研究代表者
五十嵐　智子（澁谷智子）（IGARASHI (SHIBUYA), Tomoko）

成蹊大学・文学部・講師

研究者番号：９０６３７０６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,900,000円、（間接経費）　570,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、病気や障害などをもつ親や祖父母、きょうだいの世話をしている18歳未満の子ども（ヤングケアラー）に焦点を当て、過去にヤングケアリング経験を持つ人へのインタビューを基に、論文「子どもがケアを担うとき」を執筆した。また、病院等で働く医療ソーシャルワーカーがヤングケアラーをどう認識しているのかを知るために、東京都医療社会事業協会全会員にアンケート調査を行い、402人の回答の分析から、論文「ヤングケアラーに対する医療福祉専門職の認識」を執筆した。さらに、イギリスからヤングケアラー支援の専門家ヘレン・リードビター氏を招き、シンポジウム「介護を担う10代・20代の子どもたち」を開催した。

研究成果の概要（英文）：This study focused on young carers or children who take care of their family members with chronic disease and disabilities. Based on analysis of several interviews of former young carers, the researcher wrote a paper titled 'When children become responsible for care', published in 2012. The researcher also analysed a questionnaire provided to 'Tokyo medical social workers' and published a paper titled 'How health and social professionals recognize young carers' in 2014. Moreover, the researcher conducted a symposium with Carers Japan on 23 February, 2014. By inviting Ms. Helen Leadbitter, a professional committed to supporting young carers as part of the Children's Society Include Programme, this symposium succeeded in attracting the media's attention. As a result, NHK made a TV programme featuring young carers, and Nikkei Newspaper, Asahi Newspaper and Yomiuri Newspaper published articles about young carers and young adult carers.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：ヤングケアラー　ケアを行なう子ども　若者介護者　介護者支援　障害や病気のある親　子ども支援　手話

１．研究開始当初の背景

研究を始めた当時、日本ではまだ、子どもは親などによって守られ世話をされているイメージが強く、未成年の子どもや 20 代の若者が現に介護やケアを担っていることへの認識が希薄だった。実際には、親や祖父母などが病気や障害、精神的な問題を持ち、その家の大人が家庭のケアを充分にできなくなっている場合、結果的に、子どもが家族の介護や看病、きょうだいの世話、家事などをすることも起きていた。子どもは、そうしたケアをすることで家族の役に立っていると感じる一方で、自らの学業や友人関係、進路などにしばしば影響を受けていた。イギリスでは、病気や障害を持つ家族の世話をしているこのような 18 歳未満の子どもを「ヤングケアラー（young carer）」と呼び、1990 年頃からその実態調査と支援が行われてきたが、そうした情報も、日本ではまだ広くは知られていなかった。

２．研究の目的

この研究の目的は、日本におけるヤングケアラーの実態を明らかにすることである。研究では、本来ならば大人がすると想定されているようなレベルのケア責任を子どもが負う状況がいかにして起きるのか、ケアを要する人とその家族の置かれている状況、そういう子どもたちは実際にどのようなケアを行なっているのか、その家庭に外部のサポートはどれほど入っているのかなどを、ヤングケアリングの経験を持つ人や現役のヤングケアラーへの聞き取り調査から、明らかにすることを目指した。また、一方で、こうした子どもがどれぐらいの規模で日本社会に存在しているのか、目安となる数字を出すことも試みた。さらに、医療福祉専門職が、こうした子どもたちを単なる「患者の家族」としてだけではなく「ケアを担う子ども」として認識し、子どもがケアを担うことへの支援を専門職として進めていくためにはどうすればよいか、それぞれに考えてもらう試みも行なった。そのために、海外のヤングケアラー研究や支援方法などを伝え、日本のヤングケアラーに関する情報を国際社会に発信していくことも目指した。

３．研究の方法

（１）子ども～中高生期に親が病気を発症しその病状が短期間に早い展開を見せた人々の話を聞き、そのインタビューデータを分析した。

（２）医療ソーシャルワーカーの団体である東京都医療社会事業協会の全会員 859 人に、2013 年 1～3 月にアンケート調査を行い、「ヤングケアラー」という言葉を知っているか、これまで扱ったケースで 18 歳以下の子が家族のケアをしていると感じた経験があるか、そうしたケースにおいて子どもはどんなケアをしていたか、その家庭に対する外部からのサポートはあったか、負担の重いヤングケアラーに対してどんなサポートができると思うかなどを尋ねた。このアンケートには 402 人からの回答が集まり、その回答を、自由記述回答も含めて分析した。

（３）2012 年に豊中市パーソナル・サポートセンターが手掛けたヤングケアラー支援事業のスタッフへの聞き取り調査を行なった。また、ＮＰＯ法人さいたまユースサポートネットが行なっている「子どもの居場所・学習支援」に関しても、視察やスタッフへの聞き取りを通して情報を集めた。

（４）日本で介護者支援を進める日本ケアラー連盟や男性介護者と支援者の全国ネットワークなどが主催する介護者の集いに参加し（「ケアラー支援フォーラム 2013」、「第９回　市民発！介護なんでも文化祭　「10 代で家族のケアを担うということ」セミナー」、「ケアメン★サミット　JAPAN1」、「家族介護を考えるつどい」）、参加者と情報を交換した。こうした介護者の集いでは、現役のヤングケアラーに出会うことはできなかったが、20～30 代の介護者の方たちと出会い、そのような若者介護者へのインタビューを行なった。

（５）2014 年 2 月には、イギリスでヤングケアラー支援を手掛ける The Children’s Society 包摂プログラムの副委員長ヘレン・リードビター氏を招き、イギリスでのヤングケアラー支援の現状と課題について詳しく話を伺った。さらに、ヘレン・リードビター氏の話を多くの人と共有するために、シンポジウム「介護を担う 10 代・20 代の子どもたち」を成蹊大学で開催し、介護者支援に関心を持つ人や元ヤングケアラー、現役若者介護者と共に、ケアを担う子どもへの支援の在り方について論じた。

４．研究成果

（１）子ども～中高生期に親が重い病気を発症し生活環境が大きく変わった人たちに対するインタビューの分析を基に、「子どもがケアを担うとき――ヤングケアラーになった人／ならなかった人の語りと理論的考察」を執筆し、査読付き論文として、『理論と動態』第５号に掲載した。

（２）医療ソーシャルワーカー団体の会員に対して行なったアンケート調査の中間報告を 2013 年 3 月に作成し、2014 年 2 月には、査読付き論文「ヤングケアラーに対する医療福祉専門職の認識――東京都医療社会事業協会会員へのアンケート調査の分析から」と

して、『社会福祉学』第54巻4号に掲載した。

（３）①ラフバラ大学ヤングケアラー研究班が作成したヤングケアラー・スクリーニングシートとその解説、②ケアラーズ・トラストがノッティンガム大学社会学＆社会政策学部と共に作成した質問シート「ケア活動の多元的アセスメント（ＭＡＣＡ－ＹＣ１８）」と「ケアの肯定的影響と否定的影響（ＰＡＮＯＣ－ＹＣ２０）」、③イギリスのヤングケアラー全国調査「イギリスのヤングケアラー：2004 年報告書」の要旨を、日本語に翻訳し、2013年3月に「ヤングケアラー支援ホームページ」を作成して、そこに掲載した（http://youngcarer.sakura.ne.jp/）。また、具体的な支援事例として、アンドーヴァー・ヤングケアラーズと、バーナード・ケアフリー・ヤングケアラー・サービスが行なっている支援の在り方を、同ホームページで紹介した。

（４）若者介護者へのインタビュー調査を受けて、2014年2月に「若者介護.net」というホームページを作成した
（ http://wakamonokaigo.main.jp/index.html）。

（５）イギリスからヘレン・リードビター氏を招いて行ったシンポジウム「介護を担う10代・20代の子どもたち」のため、チルドレンズ・ソサイエティとＹＭＣＡフェアソーン・マナーが作成したＤＶＤを翻訳して日本語字幕を付け、日本語版「ヤングケアラーズ・フェスティバル2009」を作成した。このＤＶＤの上映とリードビター氏の講演を含むシンポジウムには、メディアの注目が集まり、多くの新聞やテレビの取材を受けた。これらの取材は、2014年3月5日の日経新聞の記事「「18 歳以下が介護」35%　病気や障害のある家族、成蹊大調査」や、同日掲載の東京新聞の記事「増えるヤングケアラー　10 代 20 代が介護」、2014年3月20日の番組「ＮＨＫ首都圏ネットワーク「親の介護を担う 10 代 20 代の若者たち　その実情は…」、2014年3月 25 日の読売新聞の記事「家族介護　悩む若者を支援」、2014年5月6日の朝日新聞の記事「若い介護者「ヤングケアラー」、社会で支援を」等になり、その反響は大きかった。メディア取材はその後も続いており、現在も、ＮＨＫクローズアップ現代（「“自分の将来より　家族との時間を”　～若年介護者17万人～」6月17日放送予定）や週刊朝日（6月24日掲載予定）などで、ヤングケアラーや若年介護者についての特集の企画が進んでいる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 澁谷智子，2014，「ヤングケアラーに対する医療福祉専門職の認識――東京都医療社会事業協会会員へのアンケート調査の分析から」『社会福祉学』，第54巻4号，p.70-81（査読有り）．

② 澁谷智子，2014，「手話の文化と声の文化」立教大学『異文化コミュニケーション論集』第 12 号，立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科，p.7-18（査読なし）．

③ 澁谷智子，2012，「バイモダル・バイリンガリズム――手話言語と音声言語のバイリンガリズム研究が示す知見」『ことばと社会』14号，p.330-338（査読なし）．

④ 澁谷智子，2012，「子どもがケアを担うとき――ヤングケアラーになった人／ならなかった人の語りと理論的考察」『理論と動態』，第5号，p.2-23（査読有り）．

〔学会発表〕（計　０件）

〔図書〕（計　１件）

① 澁谷智子，2014，「コーダとその家族への支援」橋本和明『子育て支援ガイドブック』金剛出版より 2014年8月出版予定（原稿提出・校正完了）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

○取得状況（計　０件）

〔その他〕

【ホームページ】

①「若者介護.net」
（ http://wakamonokaigo.main.jp/index.html）

②「ヤングケアラー支援ホームページ」（http://youngcarer.sakura.ne.jp/）

【ＤＶＤ】

①チルドレンズ・ソサイエティ、ＹＭＣＡフェアソーン・マナー「ヤングケアラーズ・フェスティバル 2009」らくだスタジオ（澁谷智子翻訳、2014年2月作成）

【シンポジウムでの講演】

①「介護を担う10代・20代の子どもたち」成蹊大学（2014年2月23日開催、主催：成蹊大学文学部・澁谷智子研究室、一般社団法

人日本ケアラー連盟、協力：ＮＰＯ法人　介護者サポートネットワークセンター　アラジン）

②「なぜ、今、ヤングケアラー支援が必要なのか」富山県高岡市コミュニティ・ハウス「ひとのま」（2014 年 2 月 20 日開催、主催：成蹊大学文学部・澁谷智子研究室、男性介護者の会「みやび」、コミュニティ・ハウス「ひとのま」、後援：高岡市・北日本新聞社）

【新聞記事】

①福井新聞「介護を担う子どもたち　渋谷智子（成蹊大講師）孤立防ぐ支援、社会で」（2014 年 5 月 31 日）

②千葉日報「早急の実態調査と支援を　新たな社会問題ヤングケアラー」（2014 年 5 月 12 日）

③朝日新聞「若い介護者「ヤングケアラー」、社会で支援を　高１から父支え８年　重い責任　心の負担に」（2014 年 5 月 6 日夕刊）

④山陽新聞「家族介護の若者知って　進学、就職で困難　周囲の理解や相談窓口を」（2014 年 4 月 16 日夕刊）

⑤陸奥新報「介護の若者に救いの手必要　学業、就職で困難に直面　学校に相談できる場を」（2014 年 4 月 11 日）

⑥読売新聞「家族介護　悩む若者を支援　精神的に孤立、進学断念　同世代で情報交換の動き　ネットを通じグループ」（2014 年 3 月 25 日）

⑦東京新聞「増えるヤングケアラー　10 代 20 代が介護」（2014 年 3 月 5 日）

⑧日経新聞「「18 歳以下が介護」35%　病気や障害のある家族、成蹊大調査」（2014 年 3 月 5 日）

⑨北日本新聞「家族介護の若者支援を　高岡で交流会　英から専門家招く」（2014 年 2 月 21 日）

【放送】

①ＮＨＫ首都圏ネットワーク「親の介護を担う 10 代 20 代の若者たち　その実情は…」（2014 年 3 月 20 日放送）

６．研究組織

(1)研究代表者

澁谷　智子（SHIBUYA, Tomoko）
成蹊大学・文学部現代社会学科・准教授
研究者番号：90637068